

サービ斯拉ーニングを終えて

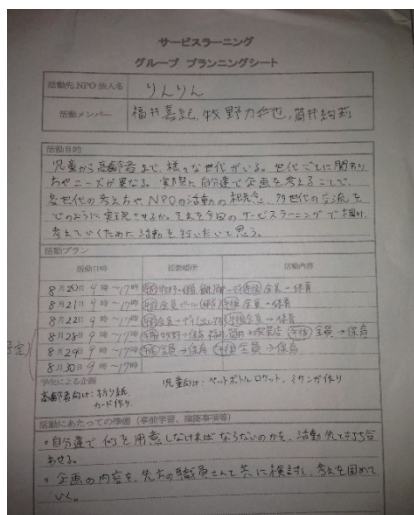
社会福祉学部社会福祉学科 2年 福井嘉紀

活動先：NPO 法人 りんりん

ゼミ：松下 典子 先生

私はこのサービ斯拉ーニングで、様々な年齢層の利用者の方々との関わり方について、幅広い世代が同じ場を共有する素晴らしさを改めて実感することが出来たと考える。この度のサービ斯拉ーニングをさせていただくにあって、私は活動先 NPO 法人を、あるポイントを大切に選り取りをした。そのポイントとは、「幅広い年代を対象に活動している」「地域に住んでいる住民同士の繋がりを大切にしている」の二つの点である。この二つの点は、私が現在興味を持っている「地域福祉」の分野で、将来自分が仕事をしていく際に絶対自分が押さえておきたいと考えているものであり、私の「地域福祉」の根幹である。今回、活動先に選んだ NPO 法人りんりん（以下：りんりんと略）は、低年齢では幼児から、高齢では百歳までを支援の対象としている。まさに、幅広い年代を相手に活動している NPO 法人である。また、行政では対応できない事細かな地域のニーズに応じて、NPO ならではの関わり方をし、事業を行っている。ここで、りんりんの理念と、その理念を元に展開している二つの事業を紹介する。

まず、中心となる理念は、た・す・け・あ・い（「た…たすけあう心で」、「す…すべての人が」、「け…けんこうで」、「あ…あんしんして暮らせる」、「い…いいまちづくり」）という

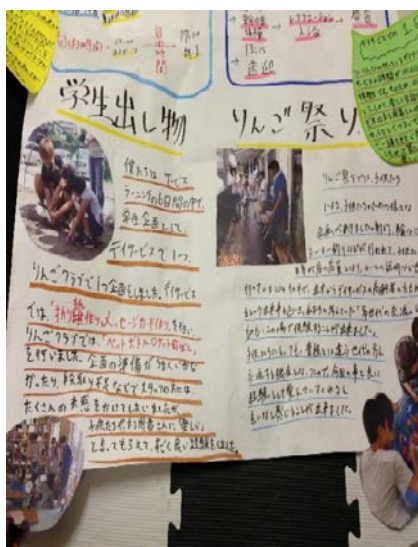


ものである。そして、この理念を中心に公的なサービスにのっとり、訪問介護（ホームヘルパー）や通所介護（デイサービス）などを提供する介護保険事業と、地域に根付くりんりん独自の自主事業の二つがある。自主事業では、介護保険でカバーされないニーズなどをたすけあいサービスとして担っていたり、地域のふれあいの場としてさをり織りやサロンを開いている。また、半田市からの委託事業としてりんごクラブという小学一年生から小学六年生までの児童を対象にした学童保育などを行っている。

以上のような活動を行っている「りんりん」がサービ斯拉ーニング先に決まり、私は一緒に活動する仲間二人と共に、何を企画しようか、その案を考えていた。企画を考えるにあたり、児童向けの企画と高齢者の方向けの企画の二つを考えるとにしたが、それぞれ年代の全く違う利用者の方々にはかに楽しんでもらえる企画にするか、すごく悩んだ。特に、楽しんでもらえるような企画のアイデアや考えが浮かばず、なかなか思うように企画内容が決まらず行き詰ったりもした。が、自分たちが

子供の時にしたかったことや好きだったこと、実際にりんりんで行われているレクリエーションをもとに考えた。仲間とそうして話を進めていく中で、私の中にアイデアや工夫が思いつくようになっていったことは私の成長した点である。それは、グループのメンバーの考えに触れたり話し合うことで、私の新たな考えが見えてきたり、自分の考えも変わっていくことがわかり仲間と共に創り上げる素晴らしさだと改めて気付いた。

実際のサービスラーニングの活動では、通所介護のデイサービスやなべと、半田市からの委託事業であるりんごクラブ、特別養護老人ホーム瑞光の里の委託事業である昭和喫茶、多世代交流の一環として行っているサロンにも少し参加させていただいた。



活動に行くと、私はりんりんの独特な雰囲気に気付いた。まずは、職員の方々がほぼ女性であるため、どの場でもすごく活気のある和気あいあいとした雰囲気であった。次に、時間帯によってりんりんの敷地内の雰囲気がガラッと変わったことだ。午前中はデイサービスを行っていて、全体的にゆったりとした落ち着いた雰囲気であった。だが、昼過ぎになると学童の子供たちの威勢のいい声が聞こえてくる。夏休みということもあり、普段より子供たちが多く集まるということもあるが、デイサービスの送迎が終わると敷地内は一気にせわしくなっ

た。この雰囲気の変化はすごく興味深かったと同時に、多世代の交流も何らかの形でできるのではないかと気づいた。そういった活動の最中、自分たちが考えた企画の準備が遅く、職員の方への連絡も遅かったため、非常に迷惑をかけてしまったことがあった。しかしそのとき、職員の方にいただいた指摘とアドバイスは、とても参考となるものであった。例えば、私たちは高齢者の方々への企画でメッセージカード作りを考えていたが、そこで使う画用紙とペンの色の組み合わせを見やすいものに変えるなど企画を行う前には気が付かなかったことに気付いた。利用者さんのことを本当に尊重することとは何だろうか、と考える良いきっかけになったと同時に、企画が失敗したことで振り返り成長できたと考える。他にも、サービスラーニングをし、いろいろな世代と関わる能力の必要性も感じた。以前よりはコツを掴めたような気がする。がまだまだ足りないと思う。

今回の活動を通して見えてきたものは、地域という舞台で活動するためには同じ活動を“継続して行うこと”の重要性である。地域の中で継続して活動することは、信頼度が上がりNPOの理と必要性も増す。そうして活動が認められ、その規模を大きくすることや、新たな活動を増やし、地域との関わりも増えて行く。そして、NPOの活動を通し次第に地域の繋がりの輪が広がることになる。私は、NPOのそういった可能性を感じることができた。